

地球研の研究

地球研では、既存の学問分野では区別せず「研究プロジェクト方式」によって総合的な研究を展開しています

地球研の研究プロジェクト方式は3種類あります

個別連携プロジェクト

個人または少人数の研究者グループから、独創的な研究アイデアを広く公募し、実施します

機関連携プロジェクト

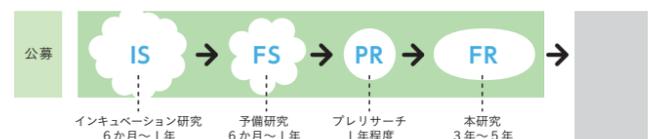
地球研と大学・研究機関などとの協定のもとで、機関同士の連携による共同研究として公募し、実施します

未来設計プロジェクト

地球研が主導してこれまでの研究プロジェクトの成果などを設計科学の枠組みで統合。あるべき社会の姿を提案します

研究プロジェクトは、IS (インキュベーション研究・Incubation Study / 個別連携プロジェクトのみ設定)、FS (予備研究・Feasibility Study)、PR (プレリサーチ・Pre-Research)、FR (本研究・Full Research) という段階を通じ、研究内容を練り上げていきます。

個別連携プロジェクト



機関連携プロジェクト



未来設計プロジェクト



地球研のこと

地球研は、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構の一員です

photo / SASAKI Yuko

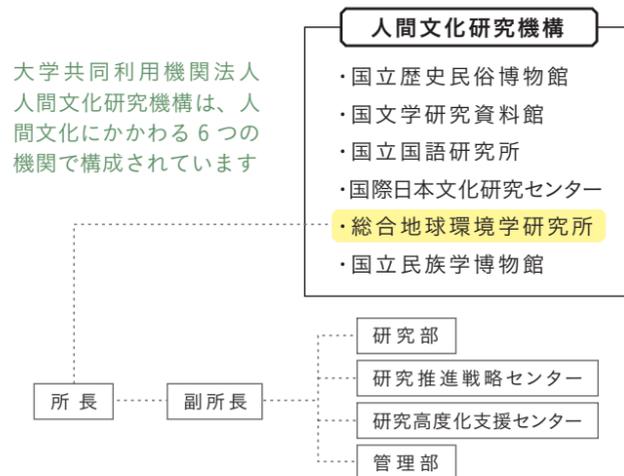


総合地球環境学研究所 (略称「地球研」、英語名「Research Institute for Humanity and Nature」) は、大学共同利用機関の研究機関として2001年に創設されました。

地球研では、地球環境問題を「人間 (Humanity)」と「自然系 (Nature)」の相互作用の問題としてとらえています。地域的な特性や歴史的な経緯などを考慮しつつ、この相互作用のあり方を解明しようとしています。また、さまざまな形で表れてくる地球環境問題を総合的に研究し、未来可能性のある社会の構築をめざしています。

大学共同利用機関とは、個別の大学では維持が困難な大規模な施設設備や膨大な資料・情報を、国内外の大学や研究機関の研究者に提供し、それを通じて効果的な共同研究を実施する研究機関です。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構は、人間文化にかかわる6つの機関で構成されています



地球研のイベント

研究成果を広く社会に発信するセミナーやシンポジウムを開催しています



1 / 地球研フォーラムでは、Twitterへ寄せられた質問や意見も取り上げ、パネルディスカッションにつなげています 2 / 地球研国際シンポジウム 3 / 地球研地域連携セミナー 4 / 地球研施設見学と環境教育に参加した地元の小学生 5 / 地球研オープンハウス参加者のようす。協力しあってチリメンモンスターを探しています

地球研市民セミナー

研究成果を定期的わかりやすく紹介しています

地球研フォーラム

地球環境問題について幅広い提起を行ないます

地球研地域連携セミナー

地域特有の問題を、各地域と連携して議論します

地球研国際シンポジウム

国内外の研究者を対象としたシンポジウムです

地球研オープンハウス

地球研の施設や研究内容を一般公開しています

地球研は京都市北部、すぐき菜が名産の上賀茂にあります



ACCESS

地下鉄烏丸線 / 京都駅 → (20分) → 国際会館駅 → 京都バス40系統「京都産業大学ゆき」または50系統「市原ゆき」または52系統「市原經由貴船口・鞍馬・鞍馬温泉ゆき」(6分) → 「地球研前」バス停下車すぐ

京阪沿線 / 田町柳駅 → 叡山電車鞍馬線 (17分) → 京都精華大前駅 → (徒歩10分) → 地球研

上賀茂方面より
 ・京都バス32系統、34系統、35系統に乗りし、「洛北病院前」バス停下車徒歩10分
 ・もしくは、上記に乗りし「京都産業大学前」バス停下車後、京都バス40系統「国際会館駅ゆき」に乗り換え、「地球研前」バス停下車すぐ

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4
 TEL. 075-707-2100(代) FAX. 075-707-2106
<http://www.chikyuu.ac.jp> 地球研



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所
 Research Institute for Humanity and Nature



ちきゅうけん



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

**総合地球環境学
 研究所**

2014

photo / ENDO Hitoshi

地球研の2014年度 (平成26年度)

研究プロジェクト



メガ都市プロ

メガシティが地球環境に及ぼすインパクト —そのメカニズム解明と未来可能性に向けた都市圏モデルの提案

地球上の人口の半分が住む都市は、人類が生きるべき最も重要な空間です。本プロジェクトは、この都市と地球環境とが調和するため、人口1000万人以上のメガシティに関して、(1)異なる学問領域、生態、歴史、文化などから統合的に把握する手法の確立、(2)問題の解決に向かうわかりやすい提案の提示、(3)環境、経済、豊かさを兼ね備えた都市のあるべき姿の提案、を目標としています。

主なフィールド：開発途上国のメガシティ、特にインドネシアのジャカルタ

個別連携プロジェクト
村松伸



エリアケイパビリティプロ

東南アジア沿岸域における エリアケイパビリティの向上

住民と自然の関係性向上が、持続的な生態系サービス利用と地域開発を両立させる鍵であるという仮説に基づき、その良好な関係性を形成・維持・発展させるための地域のポテンシャルをエリアケイパビリティとして定義しています。東南アジアや日本の沿岸域を対象として、住民、行政、研究者の協働を通じて、鍵となる要素の抽出とその検証、社会への適用に向けたガイドラインの作成をめざします。

主なフィールド：東南アジア沿岸域（タイ・フィリピン）と石垣島（日本）

個別連携プロジェクト
石川智士



地域環境知プロ

地域環境知形成による新たな commons の創生と 持続可能な管理

生態系サービスの劣化など地球環境問題を解決するには、地域の実情に即したボトムアップの取り組みが重要です。地域の人々による取り組みの基礎として、科学知と、人々の生活のなかで培われてきた多様な知識体系が融合した「地域環境知」に着目しています。世界各地の事例を収集分析し、地域環境知の形成、流通のメカニズムと、それを生かした順応的ガバナンスのあり方を探求しています。

主なフィールド：屋久島、知床、石垣島白保、宮崎県綾町、フィジー、アメリカ領ヴァージン諸島、フロリダ州サラソタ湾、マラウイ湖

未来設計プロジェクト
佐藤哲、菊地直樹



気候適応史プロ

高分解能古気候学と歴史・考古学の連携による 気候変動に強い社会システムの探索

気候の大きな変動に対して、歴史上、人々はどのように対応してきたのか。その経験はこれからの社会の設計にどのように生かされるべきか。本プロジェクトでは、縄文時代から現在までの日本を対象に、高分解能古気候学の最新の成果を歴史学・考古学の膨大な知見に結びつけ、過去のさまざまな時代に起きた気候変動の実態を明らかにするとともに、気候変動に対する社会の応答のあり方を詳細に解析します。

主なフィールド：日本、およびアジアモンスーン地域

個別連携プロジェクト
中塚武



栄養循環プロ

生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会 —生態システムの健全性

栄養バランスの不均衡が引き起こす地球環境問題を解決するには、流域住民が地域の自然に多様な価値を見だし、行政や科学者との対話を通じて地域再生に取り組むことで流域全体の再生も促されるというガバナンスのしくみが必要です。流域内の栄養循環を可視化する手法の開発、生物多様性が流域再生に果たす役割の解明とあわせて、持続可能な流域圏社会—生態システムの構築をめざします。

主なフィールド：琵琶湖、宍道湖、印旛沼、八郎湯、フィリピン・ラグナ湖の各流域

個別連携プロジェクト
奥田昇



水土の知プロ

統合的水資源管理のための「水土の知」を設える

統合的水資源管理は、人間活動が及ぼす影響の地球規模での評価と、その社会への適用という点で課題を抱えています。この課題を克服すべく、ステークホルダー（利害関係者）と協働した水管理の調査・研究を進めています。地域における問題を科学と社会との協働により解決する取り組みをとおり、多様な歴史、文化、自然条件を有する地域における望ましい科学と社会との連携のあり方を探求しています。

主なフィールド：潤潤地域のインドネシア、半乾燥地域のトルコなど

未来設計プロジェクト
窪田順平、RAMPISELA, Dorotea



砂漠化プロ

砂漠化をめぐる風と人と土

アフリカやアジアの砂漠化地域では、資源・生態環境の荒廃と貧困問題が複雑に絡み合っています。わが国を含む砂漠化対処条約の批准国には、問題解決のための学術研究と社会実践の両面で、実効ある貢献が長らく求められてきました。対象地域の風土への理解を深めながら、暮らしの安定や生計の向上につながり、同時に環境保全や砂漠化抑制が可能となるような技術や取り組みの道筋を探ります。

主なフィールド：西アフリカ（ニジェール、ブルキナファソ）、南部アフリカ（ナミビア、ザンビア）、北東アフリカ（スーダン）、南アジア（インド）、東アジア（モンゴル）

個別連携プロジェクト
田中樹



環太平洋ネクサスプロ

アジア環太平洋地域の人間環境安全保障 —水・エネルギー・食料連環

水・エネルギー・食料の連環による複合的な地球環境問題に対し、環境ガバナンスの構造と政策の最適化をとおして、アジア環太平洋地域の人間環境安全保障を最大化し、持続可能な社会のあり方の提示をめざします。ローカルでの行動様式の変容とグローバルでの地球環境問題解決への枠組みをつなぐ、ローカル・ナショナル・リージョナルレベルでの環境ガバナンスのあり方の提示に挑戦します。

主なフィールド：日本、インドネシア、フィリピン、カナダ、アメリカ

未来設計プロジェクト
谷口真人、遠藤愛子



小規模経済プロ

地域に根ざした小規模経済活動と長期的持続可能性 —歴史生態学からのアプローチ

経済活動の多様性とその規模、長期的持続可能性は密接に関係しています。本プロジェクトでは、考古学、古環境学、人類学、生態学、農学などの立場から過去と現在の事例を検討し、地域に根ざした食料生産活動がなぜ重要なのか、それを機能させるためには何が必要かを考えます。その結果に基づき、社会ネットワークに支えられた小規模な経済活動を基礎とした、人間と環境の新しい相互関係性の構築を提唱します。

主なフィールド：北日本、北米西海岸をはじめとする北環太平洋地域

個別連携プロジェクト
羽生淳子



photo / YUMOTO Takakazu